

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|----------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統郷土の文化や世界の文化の理解多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 土浦市立土浦第四中学校 】

1 実践テーマ	I・III・V
2 実施対象者 (学年・人数)	第7学年 185名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (総合的な学習の時間、学級活動)</p> <p>② 行事名 (講演会「パラリンピアンから学ぶ」)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> 福祉について調べる活動を通して、自分たちにできることを考えることで、共生社会の実現に向けて考えるきっかけとする。 パラリンピアン体験談から、今後の自分の生活を充実させるためのヒントを得られるようにする。
5 取組内容	<p>《 事前学習 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「障害者福祉」 目的：障害者福祉について調べることで、インクルーシブの意味や必要性を理解しようとする事ができる。 活動：障害者への理解を深めるために福祉用語を調べたり、様々な取組について調べたりする。調べたことをもとに、インクルーシブの必要性について話し合う。 ○ 「Tokyo2020とインクルーシブ」 目的：オリンピック・パラリンピックの歴史を調べることでパラリンピックの目的を理解し、ここでの取組をもとにインクルーシブを身近に感じ共生社会を作る必要性について考える事ができる。 活動：オリンピック・パラリンピックの歴史を調べたり、東京オリンピック・パラリンピックで実践されたアクセシビリティを調べたりする。 調べたことと自分たちの周辺を比較し、共生社会の必要性について話し合う。 ○ 「バリアをなくすために」 目的：普段の生活では見落としがち部分に目を向け、共生するための心構えについて考える事ができる。 活動：パラリンピックで使用された、競技のための道具について調べる。 「I'm POSSIBLE」を活用し、普段の何気ない生活を、障害を

もった人の目線でとらえ、それをもとにバリアを減らす必要性や発想の転換の必要性について話し合う。



《 講演会 》

目的：パラリンピアンからの体験から、共生社会の形成を考えることができる。

- 事前準備(講演会より前に実施)
 - ・これまでの自分の生活や学習への取組などを振り返り、富田選手の講演からどんなことを学びたいかを『事前メモ』にメモしておくことで、目的をもって臨めるようにする。
- 直前準備
 - ・興味をもって臨めるよう、講演の目的を確認したり、『事前メモ』を見て自分の視点を確認したりする。
 - ・事前にメモを取るポイント(参考にしたい言葉、富田選手の思いが込められた言葉、疑問に思ったことなど)を指導することで、必要などころだけを最小限の文字で書き残せるようにする。
- 講演会「今しか学べないこと」
【パラリンピック 競泳 日本代表 富田宇宙選手をお招きして】
 - ・今後の活動に活用できるように、『事前メモ』にメモを取りながら話を聞けるようにする。
 - ・自分が求めている情報が聞き出せる環境が作れるように、講師からの問いかけなどがあれば、積極的に参加する。
- 振り返り①(講演会直後)
「講演会を聞いて感じたことをまとめる」
 - ・「これからの自分」「共生社会」「その他」と分類することで、『事前メモ』を参考に講演の内容を整理しやすくする。
- 振り返り②(後日)
「共生社会の必要性について話し合う」
 - ・「支えられる」「支える」と視点を与えることで、目的をもって話し活動が行えるようにする。
(一方通行ではなく双方向であることを確認する。)
- 振り返り③(後日)「これから取るべき態度、行動について考える」
 - ・学習のまとめに生かせるように、相手の考えを知り、比較しながら自分たちの役割について考えられるようにする。



《 事後学習 》

- 「これからの共生社会の形成と自分の役割」
 - ・これまでの学習を通して得た“支えられる”と“支える”の考えから、これからの共生社会の形成のために自分たちにできることを考え、共有する。

《 体験活動 》

- 「Let's try!! ボッチャ」
 - ・障害者の気持ちを少しでも理解できるように、工夫された道具に触れてみたり、競技のルールを調べ実際にプレイしたりする。



6 主な成果	<p>※生徒の記録より</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人生における教訓となったもの <ul style="list-style-type: none"> ・いつも笑顔で楽しむというメッセージです。「落ち込んでいる時間が無駄、人生は楽しむためにある」この言葉の通り、落ち込んでないで楽しく過ごし、一度きりの人生を楽しみたいと思いました。 ・心に残っているのは、「過去は変えられない、だから今に集中する」という言葉です。私は、失敗してしまったら、やらなければよかったといつまでも引きずっていました。だから、これからは今に集中して、笑顔で過ごせるようにしたいです。 ・仲間と協力することの大切さを学びました。だから、これから先、人付き合いを大切にしていきたいと思います。 ・「将来から目標を逆算する」という話を聞いて、難しそうだなと思ったけれど、明日など短い期間での目標をもって生活していきたいと思いました。 ・自分を見つめる、自分を理解する、僕のやり方など、富田選手が自分のことについて話しているのを聞いて、すごく自分を大事にしているんだと思いました。 ○ 共生社会について <ul style="list-style-type: none"> ・話の中で心に残っていることは、「障害をもっている人たちは、その障害をプラスに考えられるようになる」「障害がある人も、ない人も、みんなと違うことが当たり前、それを分かってほしい」という話です。今までそのようなことを考えたことがなかったので、今日、話が聞けてよかったです。 ・同じ世界にいる人間でも、一人一人全然違う人だということが分かりました。バリアを作らず、障害をもっている人も、そうでない人も、楽しく生きられるような世の中がいいなと思いました。
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会以前に障害者福祉やオリンピック・パラリンピックの調べ学習を行い、障害者福祉やパラリンピックの目的と関連させながら富田選手の講演を聞くことができたようにした。 ・海外遠征中の富田選手にオンライン講演をしていただき、その中で質問に答えていただくなど、生徒の興味を引き出せるように工夫した。 ・講演会後にボッチャ体験をしたことで、実際に道具に触れたり、ルールを調べたりする過程を通して、競技者に対する配慮や工夫を実感することができた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会を行っていただけの講師の先生が二転三転したため、富田選手の招聘が決まってから、講演会開催までの期間が短く、学習の目的や講演会の流れなど、細かな部分の打合せを十分に行うことができなかった。今回は富田選手が配慮してくださり、講演の内容や視覚的な資料を準備していただいたおかげで、学習内容に即した講演会を行うことができた。 ・リモートのため実現できなかったが、富田選手と一緒に活動するなど動きのある講演会ができていれば、そこから色々な思考や感情が芽生え、質疑等も充実させることができ、共感や理解を深めることにつながれたのではないかと考える。
9 来年度以降の実施予定	<p>今回、この推進事業を通して富田選手と交流する機会を得ることができたので、このつながりを継続・拡大していくために福祉の観点を絡めながら、講演会を含めた取組を総合的な学習の時間のカリキュラムに組み込んでいけるようにする。</p>